

くまきよしき

市政レポート

第5号

- 12月定例会報告！「双方よしのデジタル化推進」
- 令和3年度決算報告！「高岡市の財政はいま？」

高岡市議会議員

熊木義城

くまき

よしき

27歳

成美小、志貴野中、高岡南高、立命館大卒
株式会社パソナグループ
京都市議会議員秘書を経て
高岡市議会議員選挙に当選。
現在1期目。会派「高岡愛」所属。



12月議会の質問！一市民と市役所、双方よしのデジタル化、進めませんかー

最近よく耳にする「デジタル化」という言葉。抵抗感をお持ちの方もおられるかもしれませんが・・・私は、今後の行政運営には不可欠のものと思っています。例えば、近年、住民票の写しや戸籍謄本がコンビニで取得できるようになったように、技術の進歩によって実際に便利になっている例は多数あります。市民ニーズも高まっていることを感じるうえ、市役所側にとっても業務効率化のメリットは大きいです。高岡市はコロナ前からデジタル化に力を入れており、電子申請できる種類は豊富で、申請実績は県内トップ。この流れを後押しし、より時代に合わせることで、行政サービスの満足度向上、そして身近なところから高岡市への信頼感アップにつなげようという思いで質問しました。



デジタル先進自治体 大阪府四條畷市へ調査に

今回は、質問にあたり現地調査へ。伺ったのは大阪府四條畷市。すごいところは、進学や就職で引越した先など、離れた場所からでもスマホを通して転出届けを申請できるなど、デジタル化において、全国でも類がない新サービスをどんどん生み出している積極性です。また、全国で初めて、道路の穴や破損箇所をLINEで市に通報できるような仕組みを導入しました。この仕組みはいま全国に広がっています。私は今回はこの「LINE通報システム」に着目し、道路補修ではなく除雪の通報に使えるのでは？という考えで質問。大雪の際は各地域で様々なトラブルがおこると思います。除雪対策本部には連絡が集中し、電話回線がひっ迫することも。また、職員の負担も大きくなり、重要度の見極めも難しい。そこで、より手軽な通報手段を増やし、これらの問題を一気に解決してはどうかという提案です。

～一般質問にて～



通報を受ける手段のひとつとして、公式LINEの導入を検討しては。公式LINEは、連絡を受けるだけならゼロ予算で実現でき、また、LINEの利用率が年々上昇する中（約90％）で、市民にとってもっとも身近で手軽な連絡手段のひとつである。また、トラブルにおける状況を写真や位置情報で素早く正確に把握することができ、電話に比べても、連絡を受ける職員の負担軽減につなげることができるのではないかと。

除雪の通報体制は電話、メール、市民通報システム（既存の電子申請システム）で対応している。



市の回答の「市民通報システム」は、道路破損の通報をスマホからできるシステムです。「高岡市 道路補修」で検索すれば活用できます。道路の穴の補修を通報するには便利なシステムなので、必要な際はお使いください。しかし、この市民通報システムは道路補修のみの対応なので、除雪状況の確認などの除雪に関する幅広い通報には活用できません。そのあたりの私の意図が十分伝わらなかったのは率直に力不足を感じるところです。また公式LINEでは、「双方向コミュニケーションがとれない」という課題があがったので、質問で明らかになった課題をどう乗り越え、さらに具体的な提案とできるか、より掘り下げて研究していきます。

くまきよしきの質問の様子がYouTubeで見られます⇒
QRコードを読み取るか、YouTubeにて「高岡市議会 熊木」で検索！



特集！ 令和3年度高岡市決算報告！ 一高岡の財政はいま？

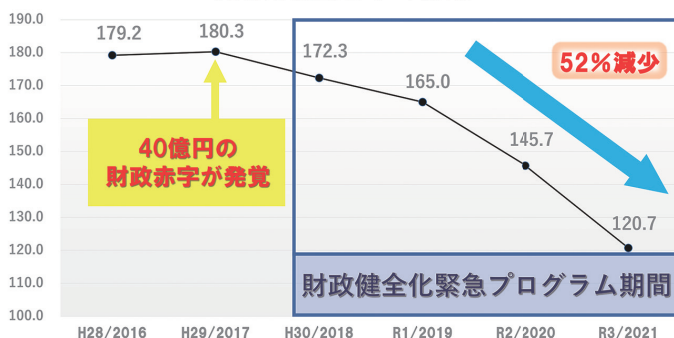
決算とは？

地方自治体における決算は、年間を通して「収入はいくらで、いくら使ったか、また具体的に何につかったか」ということを明らかにしたものです。具体的には、3月の議会で年間の予算を決定し、4月をスタートとして、翌年の3月まで運営した結果を審議します。予算と比べて大きい変化はないか、適切に皆様の税金が使われていたのかを指摘する、議員の仕事のうち最も重要なもののひとつです。昨年11月に決算特別委員会の審査が行われました。



決算は非常に複雑なものですが、皆様にお伝えすべきことはまず、「高岡市の財政は、いまどうなのか」ということです。5年前の2017年末に約40億円の財源不足となり、必死になって財政健全化に取り組んできた高岡市。昨年の3月には1年前倒して緊急プログラムが終了し、「目標の健全化を達成した」というスタンスですが、実際はどこまで改善されているのか。どんな状態なのか。しっかりとひとひも解いてみていきます。

将来負担比率の推移



この5年で、すべての数値が大幅改善

結論から言えば、高岡市の財政状況は、5年前に比べ、大きく改善されています。今回の令和3年度の決算状況の数値が明らかになり、よりその傾向がわかりました。例えば、将来負担の大きさを示す将来負担比率はここ数年で大幅に減少しています。(グラフ①参照)

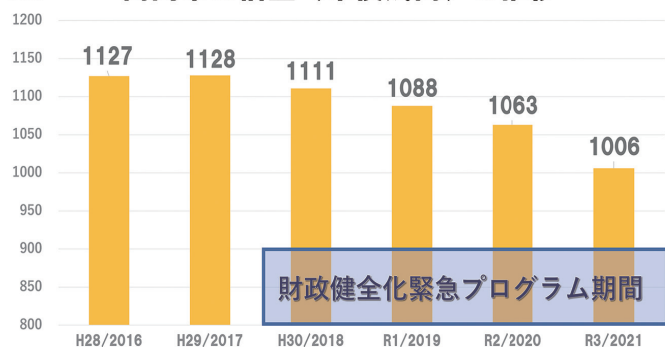
将来負担比率とは：そのまちの財政規模に対する、借金を含む負債の割合。平成29年度の180%のときには、高岡市の財政規模のおおよそ1.8倍の負債があったということ。

今後5年の高岡市の新方針では、将来負担比率はおおむね99%以下を目指す方向です。

私もこの目標に異論はなく、引き続き将来に負担を残さないような運営を要望しています。2010年代に抱えた負債の大きさから考えれば、着実に健全化に向かっています。しかし、私たち議員は、これまでの市役所の努力、市民の協力を無駄にしないため、毎年の予算・決算を注意深くチェックしていきます。

そうはいつでも、まだまだ借金返済に重きをおいた財政運営は続きます

高岡市の借金（市債残高）の推移



上記のとおり、高岡市の財政健全化は着実に進んでいます。しかしながら、現在は通過点です。最悪の状況は去りましたが、今後も引き続き「ちょっと厳しい」状況が続きます。ここで「財政危機はもう過ぎ去った」という意識で、放漫経営になってしまっては元も子もありません。具体的にどんな状況が続くのか・・・ということをたえず皆様にお伝えしなければと思っています。

例えば、高岡市の借金（市債）の総額は着実に減少していますが、まだまだ1000億規模の状態が続いています(グラフ②)。

数字だけだとわかりにくいかもしれません。何が問題かといえば、**借金の規模が大きいので、「毎年の支出のうち、借金返済の割合が高い」ということです。**

高岡市の支出のうち、実質12%が借金の返済である公債費にあてられています。また、今後5年もおおむね12%前後が続くことがわかっています。**実は、この約12%という割合は非常に高く、全国平均は約5～6%です。**割合でいうと、他の自治体の倍近く借金返済に使われていることになります。自治体の税収はそう簡単に伸びない以上、決められた財源の中で、いかに行政サービスの満足度をあげるかが重要視されるなか、毎年固定費で借金返済に使わなければならないということは非常に厳しい状況です。仮に家計に置き換えたらどうでしょう。収入の10%以上を借金返済にかかるとは大変ですね。

この今の状況は、過去の自治体運営の結果です。私たちが今、過去数十年の負債のツケを負っているということは、今後もありうることです。最年少議員として、未来を担う世代のため、いまできる対策はしっかり行い、これ以上の先送りはさせないという強い意志で、今後も仕事に取り組みます。

今回のチラシに関するご意見・ご感想など、どんな内容でもお気軽にお問い合わせください！

☎0766-25-3861

✉ y.kumaki26@gmail.com

💻 <http://kumakiyoshiki.com/>

自由民主党「高岡愛」所属 熊木義城

熊木義城 出版第7号編集・発行人：熊木義城

933-8601 高岡市広小路7-50 高岡市議会

令和5年1月20日発行 討議資料

